

## 小・中学校音楽研究部

### I 研究主題

音楽教育における形成的評価の在り方

～形成的評価を利用した鑑賞・器楽・歌唱の授業内容と指導法～

### II 研究主題設定の理由

昨年度は、音楽の学習を通して思考力・判断力・表現力を育成するために必要な方策を考察し、一人一人が思いや意図をもって表現できる能力の育成とその評価について研究を行った。その研究の成果として、思考力・判断力・表現力を育成する指導において、判定基準を利用することがとても重要であることが分かった。判定基準を設定することにより教師と児童生徒の双方が達成目標と到達状況の差を把握しやすくなる。また、課題解決の過程や結果のレベル間の違いが明確に記述されているため、支援の方法も具体的になり、児童生徒自身の達成目標と達成状況の差や、次に目指すべき段階を具体的に示す形成的フィードバックが実施しやすくなる。これらのことにより、児童生徒の学習が、次の目標に向けてより主体的に学習に取り組む様子も見ることができた。

しかし、課題として2点のことが明らかになった。1点目は音楽科という教科の特性上、「演奏」場面の児童生徒一人一人の学習活動や課題の到達状況を見取ることに困難を極めたこと。2点目は観点や領域によって、どのような児童の姿や記述等を評価対象とするかという点での教師間の認識の違いや、判定基準の曖昧さがまだまだあり、評価が円滑にできなかった部分があったこと。

このことから、今年度は、昨年度行えなかった器楽・鑑賞領域を研究に組み込み、引き続き教師と児童生徒双方にとって、より有用な判定基準を精査しながら、それを利用した形成的フィードバックを行う授業内容・指導方法の研究に取り組もうと考えた。

### III 研究の内容

#### 1 器楽・鑑賞・歌唱領域の授業実践

3つの違う領域において形成的フィードバックに重点をおいた授業を実践し、その授業内容と指導方法について検討した。

##### (1) 実践領域と教材等

| 領域    | 器楽   | 鑑賞  | 歌唱                              |
|-------|--|---|---------------------------------|
| 学年    | 小学校 第3学年   | 小学校 第1学年                                    | 中学校 第3学年                        |
| 人数    | 39人  | 24人   | 38人                             |
| 教材    | リコーダー「白い雲」<br>原 由多加 作曲                           | 「シンコペーテッド<br>クロック」<br>アンダーソン 作曲             | 「名づけられた葉」<br>新川和江 作詞<br>加賀清孝 作曲 |
| 目標    | 4拍子のながれにのって、「白い雲」を音色に気をつけてリコーダーで演奏することができるようにする。 | 楽器の音色やリズムに気をつけて聴き、楽曲の面白さを味わって聴くことができるようにする。 | 曲想と歌詞への理解を深めて表現することができるようにする。   |
| 評価の観点 | 表現の技能  | 鑑賞の能力                                       | 表現の創意工夫                         |

(2) ルーブリックの設定理由


|    |  |
|----|--|
| 歌唱 | <p>より豊かな表現を追求するうえで、歌詞の内容、音楽の構成を理解することはとても重要な事である。しかし、実際には教師からの指導内容が音楽づくりの基盤となっており、生徒が自ら楽譜や歌詞から読み込む(=知覚)ことに関しては、時間がかけられていない。</p> <p>そのため、情報が与えられるまでは曲になかなかアプローチすることができず、自ら課題を克服できているのか実感が持てない。</p> <p>本題材では、学習指導要領のA表現 歌唱ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」、ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら歌うこと」に関連し、<u>より豊かな表現を追求するために、音楽を構成する要素と歌詞との関連性を知覚し、表現に生かしていくことをねらいとしている。</u></p>                    |
| 器楽 | <p>本時における共通事項は、「拍の流れ」に設定し、前時に学習した2、4拍子に加えて3拍子独特のやさしい拍の流れを感じとりながらリコーダーの音色を楽しんでいく学習としたいと考えた。</p> <p>そこで、階名唱でリズムよく拍にのれるような練習や、運指を視覚から補助する掲示物や、運指を示したプリントを用意して練習させる。また、運指に対する困難さがさほどない児童に対しては、音色について意識できるよう、息の入れ方等も問いかける。その上で、演奏できた長さにはこだわらず、運指が正しく、音色に気を付けて拍にのって演奏できている状況をおおむね満足(B)とし、さらにフレーズを意識したりブレスの場所に気を付けて演奏したりできている状況を十分満足(A)、運指が困難で拍に合わせられなかったり、運指はできるが拍の流れにのれなかったりする状況を努力を要する(C)と位置付けた。</p> |
| 鑑賞 | <p>これまで鑑賞に関しては、たくさんの曲の感じの違いを聞き取ることは行ってきたが、1曲を深く鑑賞して楽器の音色の違いを聞き取ることは、初めての学習である。</p> <p>また既習のメロディーが出てきたり、身体でリズムを聴取したりするなど、初めて聞く音楽に耳をすませ、楽器の音色やリズムに注目しながら音楽を聴く学習を十分に行ってきていない。</p> <p>そこで、本題材の第1時からオーケストラ楽器の雄大な音色を味わわせながら、<u>音楽の要素に気づかせて鑑賞させ、色々な楽器に親しむきっかけとなることをねらいとした。</u>また、音楽の要素にある「音色」と「リズム」に注目させて音楽を聴くよう意図して授業展開を考えた。</p>   |

## IV 実践例①

- 1 学校名 所沢市立狭山ヶ丘中学校第3学年の事例
- 2 題材名・題材の目標  
合唱の豊かな表現／曲想と歌詞への理解を深めて表現しよう
- 3 題材の評価規準

|         | 音楽への関心・意欲・態度  | 音楽表現の創意工夫  | 音楽表現の技能  |
|---------|---|--|--|
| 題材の評価規準 | ① 声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 | ①音楽を形づくっている、音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。<br>②声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 | ①声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 |

### 4 本時の展開 (3 / 4時)

| ○学習内容 ・学習活動   | ・指導上の留意点 【評価方法】  | 共通事項     |
|---|--|----------|
| ○発声練習<br>・発声練習<br>・既習曲の合唱   | ・表現につながる豊かな発声を意識させる。   |          |
| ○本時の目標と課題の確認<br>○「名づけられた葉」に出てくる音楽記号を理解する (知覚)<br>・楽曲を大きく4つに分け、パートごとに担当した部分の音楽記号について調べる。<br><br>○強弱記号や、速度記号が楽曲の雰囲気や歌詞にどう関連しているのかを考える。<br>・調べた記号についてリーダーに発表させ、全体で確認をする。<br>・確認した部分について、歌詞とどう関連しているか縦書きを見ながら意見を出し合う。(感受 創意工夫)<br>○全体で合唱する(表現)<br>・確認した内容を意識しながら、部分ごとに合唱していく。 | <p>曲想と歌詞への理解を深めて表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚の楽譜にまとめ、クラス掲示できるようにし、クラス練習につなげていく。</li> </ul>  <p>拡大楽譜に提示→共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認したことが生かされるよう、部分ごとに区切り歌唱させる。【技能・活動観察】</li> <li>・パートが独立して出てくる部分については、パートごとに歌唱し、他のパートに変化が見られたかどうかを聴かせる。(感受)</li> </ul> | 速度<br>強弱 |
| ○今日の学習を振り返る   | ・本時の学習を振り返り、変化が見られたところについて評価をし、次時の意欲につなげる。<br>・次時の学習内容を確認し、曲に対する意欲を持たせる。   | テクスチャ    |

5 形成的評価の活用による生徒の変容

今回の研究では、自分たちで音楽を知覚する作業を入れ、自分たちが目指すべき音楽のイメージを感覚的なものだけで捉えるのではなく、知覚と感受を関連づけることでより深い表現につなげることを目指した。



**知覚**

○「名づけられた葉」に出てくる音楽記号を理解する。  
 →パートごとに担当した部分の音楽記号を調べる。  
 →強弱記号や、音楽記号が楽曲の雰囲気とどのように関連しているのかを考える。



本時のルーブリック

|  |  |
|--|--|
| 十分満足 (A)   | A に達しない(B)生徒への学習支援   |
| 曲想の変化および強弱、速度など、音楽を形成している要素を的確に知覚し、感受したことを関連付けて歌うことができる。【演奏（歌唱）】 | 音楽の諸要素については知覚できるが、歌唱の表現につなげていけない生徒に対しては、範唱を聴かせることで、違いを認識させ表現へとつなげる。  |
| おおむね満足 (B)   | B に達しない(C)生徒への学習支援   |
| 曲想の変化および強弱、速度など、音楽を形成している要素を自分なりに知覚し、感受したことを関連付けて歌うことができる。       | 音楽を形成している諸要素を知覚できない状況から、各記号等の名称や意味を、一覧表で振り返らせ、曲想と記号の関連性を感じ取れるよう支援する。 |



強弱や曲想の変化を 歌詞と関連付けることができている。(知覚)

**感受(共有化)**



**表現**



**創意工夫**

知覚-感受

表現

教師から与えられた課題だけでなく、自分たちの演奏を聴取し、改善するサイクルが生まれ、表現につながった。

## IV 実践例②

1 学校名 所沢市立清進小学校 第3学年の事例

2 題材名 拍の流れにのろう

3 題材目標

(1) 拍の流れにのって、拍子を感じ取りながら表現したり聴いたりすることができるようにする。

(2) 拍子にのって、きれいな音でリコーダーを演奏することができるようにする。

4 題材の評価規準


| 音楽への関心・意欲・態度  | 音楽表現の創意工夫   | 音楽表現の技能   | 鑑賞の能力  |
|---|---|---|--|
| 拍の流れを感じ取りながらいろいろな拍子の音楽を演奏したり、拍の流れにのって音楽を聴いたり、簡単な旋律をつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。 | 拍の流れや曲想を感じ取って、それにふさわしい歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫したり、自分の気に入る簡単な旋律をつくるために音の組み合わせ方を工夫したりしている。 | いろいろな拍子の拍の流れにのって、曲想にふさわしい表現で歌ったりきれいな音色でリコーダーを演奏したりしている。 | 拍の流れにのって体を動かしたり、二重唱の声の重なりや掛け合いの部分のおもしろさを感じ取ったりしながら聴いている。 |


5 本時の指導

(1) 本時の目標

4拍子のながれにのって、「白い雲」を音色に気をつけてリコーダーで演奏することができる。【表現の技能】

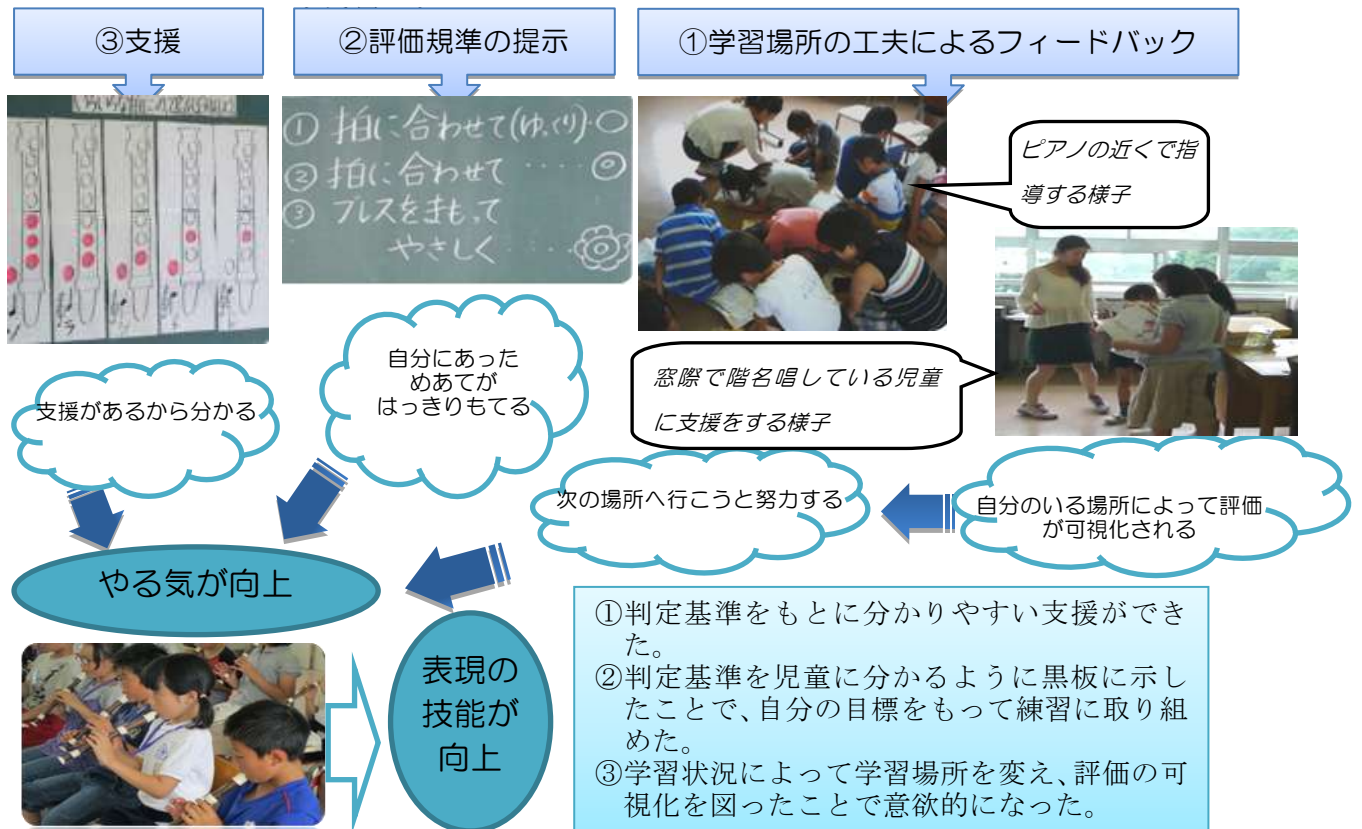
(2) 本時の展開 (3/6)

| ○学習内容・学習活動  | ・指導上の留意点【評価方法】   | 共通事項  |
|---|--|---|
| <p>○めあての確認</p> <p>・「白い雲」の階名唱をする。</p> <p>形成的評価の活用場面<br/>①</p> <p>・ 白い雲をリコーダーで練習する。</p> | <p>4拍子の流れにのって「白い雲」をふこう。</p> <p>わからない・階名は書けるが階名唱は難しい児童への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まだ階名に慣れていない児童が多いので黒板に、ソ・ラ・シ・ド・レの位置を掲示しておく。</li> <li>階名が書けた児童は階名唱をする。初めの何人かとは教師と一緒に歌い、正しいリズムで歌わせるようにする。</li> </ul> <p>学習状況によって場所を変える</p> <p>先生と一緒に書いてみる人→ピアノの前<br/>自分で書いてみる人 →自分の席<br/>書かないで階名唱をする人→窓際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>練習の前にどんな音色がこの曲に合うのか考えさせる。</li> <li>きれいな音、やさしい音、息をやさしくする。</li> <li>タンギングやブレスを守ることも伝える。</li> </ul> | <p>リズム<br/>拍の流れ</p>  |

| 形成的評価<br>の活用場面<br>②   | ・ 評価規準を提示する。   | フレーズ  |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
|---|--|---|---------|----------|-------------|---|---|---------------|----------------------------------|--|------------|---|--|--|
| 支援<br>運指の支援   | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ①拍に合わせてやさしくふこう (ゆっくり) ○<br/>           ②拍に合わせてやさしくふこう。 ◎<br/>           ③ブレスの位置を守ってやさしくふこう。 ✿         </div>   | 速さ<br>リズム<br>音色<br>拍の流れ   |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| 形成的評価<br>の活用場面<br>③   | <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運指が不安な児童は<b>運指表</b>を見たり前で教師と練習したりできるようにする。</li> <li>・ 個別に指をおさえてあげながら練習する。</li> </ul> </div> </div> |   |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| ・ 演奏する。   | ・ 座席の8人ごとに演奏させる。   | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【演奏聴取・観察】</b><br/>         4拍子のながれにのって、「白い雲」を音色に気を付けてリコーダーで演奏することができる。       </div> |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">判定基準</th> <th style="width: 35%;">児童の学習状況</th> <th style="width: 50%;">教師の指導・支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分満足できる (A)</td> <td>拍の流れを伴奏や友達と合わせながら、ブレスを正しく行って音色に気を付けて演奏している。</td> <td>A児童への学習指導<br/>息の強さを高さに合わせて変えたり、レガードに音をつなげられたりするように伝える。</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足できる (B)</td> <td>拍の流れを伴奏や友達と合わせながら音色に気を付けて演奏している。</td> <td>Aに達しない (B) 児童への学習支援<br/>ブレス記号の位置を守って息を一定の間つなげるように伝える。</td> </tr> <tr> <td>努力を要する (C)</td> <td>拍の流れを合わせられない。拍の流れに合わせられるが、音色に気を付けることができない。(息が強すぎたり弱すぎたりする。)</td> <td>Bに達しない (C) 児童への学習支援<br/>速度を落として伴奏をし、児童が演奏可能な拍の流れをつくる。<br/>息の強さをシャボン玉をふくらますつもりぐらいにすることを伝える。</td> </tr> </tbody> </table> |  | 判定基準  | 児童の学習状況 | 教師の指導・支援 | 十分満足できる (A) | 拍の流れを伴奏や友達と合わせながら、ブレスを正しく行って音色に気を付けて演奏している。 | A児童への学習指導<br>息の強さを高さに合わせて変えたり、レガードに音をつなげられたりするように伝える。 | おおむね満足できる (B) | 拍の流れを伴奏や友達と合わせながら音色に気を付けて演奏している。 | Aに達しない (B) 児童への学習支援<br>ブレス記号の位置を守って息を一定の間つなげるように伝える。 | 努力を要する (C) | 拍の流れを合わせられない。拍の流れに合わせられるが、音色に気を付けることができない。(息が強すぎたり弱すぎたりする。) | Bに達しない (C) 児童への学習支援<br>速度を落として伴奏をし、児童が演奏可能な拍の流れをつくる。<br>息の強さをシャボン玉をふくらますつもりぐらいにすることを伝える。 |  |
| 判定基準  | 児童の学習状況  | 教師の指導・支援  |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| 十分満足できる (A)   | 拍の流れを伴奏や友達と合わせながら、ブレスを正しく行って音色に気を付けて演奏している。  | A児童への学習指導<br>息の強さを高さに合わせて変えたり、レガードに音をつなげられたりするように伝える。   |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| おおむね満足できる (B)   | 拍の流れを伴奏や友達と合わせながら音色に気を付けて演奏している。   | Aに達しない (B) 児童への学習支援<br>ブレス記号の位置を守って息を一定の間つなげるように伝える。  |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |
| 努力を要する (C)  | 拍の流れを合わせられない。拍の流れに合わせられるが、音色に気を付けることができない。(息が強すぎたり弱すぎたりする。)  | Bに達しない (C) 児童への学習支援<br>速度を落として伴奏をし、児童が演奏可能な拍の流れをつくる。<br>息の強さをシャボン玉をふくらますつもりぐらいにすることを伝える。  |         |          |             |   |   |               |                                  |  |            |   |  |  |

## 6 形成的評価の活用による児童の変容

形成的評価を活用して以下の3点を実践し、児童の意欲の向上につながった。



- ①判定基準をもとに分かりやすい支援ができた。
- ②判定基準を児童にわかるように黒板に示したことで、自分の目標をもって練習に取り組めた。
- ③学習状況によって学習場所を変え、評価の可視化を図ったことで意欲的になった。

## IV 実践例③

1 学校名 所沢市立宮前小学校第1学年の事例

2 題材名 いろいろな おとに したしもう



題材の目標○いろいろな音に興味・関心をもって聴くことができるようにする。


○いろいろな楽器の音の鳴らし方を工夫しながら、様子に合う音を探して演奏することができるようにする。

3 単元の評価規準 (鑑賞領域のみ抜粋)

|    | ア 音楽への関心・意欲・態度   | エ 鑑賞の能力                                    |
|----|--|--|
| 鑑賞 | いろいろな音に関心をもって聴いたり、様子を思い浮かべて音の出し方を工夫したりしながら、表現する学習に進んで取り組もうとしている。 | 楽曲を特徴付けている楽器の音色に注目しながら聴き、音楽の楽しさに気付いて聴いている。 |

4 本時の展開 (1/7時)

| ○学習内容・学習活動   | ・指導上の留意点【評価方法】  | ◎共通事項   |   |
|--|---|---|---|
| <p>学習課題</p> <p><b>みみを すまして とけいの おとを ききましょう</b></p> |   |   |   |
| 展開   | <p>○時計の音 (ウッドブロック) の聴取</p> <p>・音楽を聴く (提示部のみ)</p>  | <p>・楽器 (ウッドブロック) の音に注目させる</p> <p>T:「音楽を聴いてみよう。時計の音がしたら時計のリズムに合わせて、指を動かしてみよう。」</p> <p>【行動観察・発言聴取】</p>  | <p>◎ア 音色・リズム</p>  <p>時計の音に合わせてみよう</p>      |
|  | <p>発言内容 A: 変則的なリズムの違いが分かり、言葉にできる。</p> <p>B: 時計の音と他の楽器の音の違いが分かり、言葉にできる。</p> <p>行動観察 A: 変則的なリズムの音を聴取し、そのタイミングで指が動かせる。</p> <p>B: 指が動いている</p> |   |   |
|  | <p>○ベルの音 (トライアングル) の聴取</p> <p>・音楽を聴く (展開部のみ)</p>  | <p>・楽器 (トライアングル) の音に注目させる</p> <p>T:「次はベルみたいな音がしたね。この楽器の音が聞こえたら、立ってベルを鳴らしてみよう。」</p> <p>【行動観察・発言聴取】</p> | <p>◎ア 音色・リズム</p>  <p>ベルが鳴った～!<br/>身体表現</p> |

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>○楽曲全体の聴取<br/>・音楽を聴く<br/>(全部)</p>  | <p>・楽曲全体を通して聴かせる<br/>T:「最後に時計が壊れてしまっているところも上手に表現できたね。では、最後に最初から全部聞いてみよう。」<br/>【行動観察・発言聴取・表情観察】</p> | <p>みんなでやると面白い!</p>  <p>◎ア 音色・リズム</p> |
| <p>行動観察・表情観察・発言内容<br/>A: 色々な楽器の音との違いを言葉にでき、リズムの違いを感じ取りながら、味わって聴いている。<br/>B: ウッドブロックやラインアングルの音に気づき、楽しんで聴いている。</p> |  |   |
|  |  |   |

5 形成的評価の活用による児童の変容

音楽の要素の「音色」と「リズム」の聴取に焦点化して鑑賞をしたが、それぞれの特徴的なリズムを知覚し、体全体でリズムを感じ取り表現できる児童が多くなった。授業ではそれぞれの要素がより明確になるように、楽曲を短く区切り、その都度発問を行い、聴く視点からはずれないようにした。最初は時計のリズムをどう表現していいかわからなかった児童も、数回同じ部分を聴かせることにより、徐々に聞き取れるようになった。指を使って時計の針の音を追っていったり、体全体を使ってベルの真似をしたりするなど、音楽の楽しさを素直に体全体で感じ取れていた。

知 覚

じっくり聴き



感 受

指でリズムを取り



チクタク  
チクタク




表 現

体全体で表現!!



ジリリリン





## V 成果と課題

|           |  |
|-----------|--|
| <p>歌唱</p> | <p>限られた時数の中で、読譜の能力を向上させるのは困難な現状である。また、音楽科においては、知識を身に付けることだけが目的ではなく、知識を生かすことでより深い表現や、創意工夫につなげていくことが、本来の目的である。その中で、楽譜を読み込む時間を多くとることは初めての試みであったが、自分たちが選んだ曲をより深く知ることの楽しさを生徒たちが感じながら取り組んでいる様子が伝わってきたのは大きな成果である。</p> <p>また、教師が思っている以上に、楽譜が生徒の興味・関心につながるものだとして認識することができた。今回の試みを実施したことにより、自分たちの演奏に対する評価の視点が広がり、パートごとの反省会も充実したものとなった。強弱を工夫したり、音の長さをしっかり保つなど音に対する表現も大きく変化した。</p> <p>課題としては、基本となる知識が豊富でなかったため、知覚から表現に至るまでの過程が円滑ではなかったことである。音楽記号などの理解や読譜力が定着すれば、もう少し歌詞との関連性などに迫っていくことができるように感じる。週1回の授業で、いかに効率よく知識を増やしていくのかの工夫が必要である。</p> |
| <p>器楽</p> | <p>判定基準を作成し、それを児童にも分かるように黒板に示して伝えたことで、児童一人一人が自分の目標をもってリコーダーの練習に取り組み、練習後の達成状況も把握できてた。</p> <p>また「拍のながれにのって」ということについての定義があいまいで、授業者と観察者によって評価のずれが生じていた。リコーダーの運指ができていなくても、体全体で拍に合わせて音楽の流れにのっている児童はどのような評価になるのかという疑問も生じた。</p> <p>音楽の演奏を評価するという点で記録に残すことが難しく、今回の授業でも8人以上の児童を同時に演奏させた結果、個々の課題に対する実現状況の把握がしっかりと行えなかった。今後の課題としては評価の方法を精選し考慮した上での判定基準が必要である。</p>  |
| <p>鑑賞</p> | <p>初めて1曲を丁寧に深く鑑賞し、楽器の音色の違いを聞き取る学習を行ったが、多くの児童が楽曲の楽しさを感じ、音楽の要素である特徴的な「音色」と「リズム」を聴取することができた。</p> <p>これは楽曲を短く区切って鑑賞させ、聴く部分を焦点化したこと、またその聴取の様子を身体表現をしながら聴かせたことが児童の知覚や鑑賞意欲を高めることにつながったのではないかと考える。</p> <p>課題としては、A判定の児童への言葉がけやC判定の児童への指導上の手立てが挙げられる。より効果的な判定をするための手立てとして、楽曲の全体から鑑賞し、そこから区切って聴く方法もある。さらには、児童の表情や身体表現がお互いに見えるようにするため、机をコの字型にするなど、鑑賞意欲を高めるため授業形態の工夫が挙げられる。</p>  |

## VI まとめ

### 成果

- 評価対象となる児童生徒の状況把握と学習状況の見取り方の改善による評価の円滑化  
音楽科という教科の特性上、演奏場面の児童生徒一人一人の学習活動や課題の実現状況を見取することを明確にした。どのような児童の姿が記述等を評価対象とするかという点での教師間の認識の違いや差がないよう、判定基準の設定を行う際に児童の姿がより具体的になるよう話し合い、判定基準の曖昧さを回避できるようにした。また、評価する機会を過度に設定することのないよう、各観点で1単位時間あたり1～2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を行った。また評価の方法も、楽譜への書き込みや授業中の見取りなどを適切に組み合わせて行った。

以上の改善により、評価を行うこと自体が負担となるようなことなく、無理なく児童の学習状況を的確に評価することができ、評価の円滑化を図ることができた。

- 形成的フィードバックの効果

判定基準を利用した形成的フィードバックを行うことで、児童生徒には段階的に自分たちがどう学習していけばよいかという、目指す方向を明確に示した授業を展開できた。また判定基準を目に見えるように提示したことで、児童生徒もそれを目標としながら学習活動をし、自分からみても他人から見ても自分がどのように変容したかがわかるようになった。それにより、多くの児童生徒に向上心が芽生え、意欲的に学習に取り組めるようになった。また、教師側から見ても判定基準を利用したことにより、評価の根拠が明確になり児童へ支援する場面が増えた。

### 課題

- 客観性のある判定基準の作成

判定基準の設定を明確に決めたが、教師の主観が入ってしまうことが多くあった。主観に偏らず、公平で客観的な評価をしていくかということが必要とされる。また判定に至るまでの見取りがやはり難しく、1時間内で全員を正しく評価できたかに関しては疑問が残る。児童生徒の変容についての記録全てを形に残すことが難しいという音楽科の特性において、今後の大きな課題といえる。

- 意図的な指導・評価計画の作成

評価の場面をどこに設定するかについては、題材の指導計画をふまえ、意図的・計画的に設定しなければならない。先に述べたように、1時間内で全ての児童生徒に対してフィードバックが難しいがゆえに、より計画的な評価が必要とされる。今回の研究については1時間内でのフィードバックを目指したが、題材を通しての評価も効果的に位置付けていくことが課題といえる。

### ☆参考文献

「思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価 国立教育政策研究所総括研究官」山森光陽  
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校音楽】」

平成23年11月